

磯子区G 30 応援隊初代隊長として

秋保 友子

横浜市が、分別品目拡大の全市展開を平成17年4月からスタートすることになった。各区で、各々その対応に様々な工夫を考える必要がでてきたが磯子区はその中で、先行6区として、平成16年10月から始めることになっていたため、急ぐ必要があった。

ごみ処理は、誰にも関係があり、毎日せざるを得ないことながら、今一つピンときていない状況である。そうした中、平成16年4月の「磯子区ごみゼロ推進委員会」に、一つの提案が出された。「G30キャラバン隊」の結成である。会の所属団体から希望者を募り、まず分別の学習を行った。

最初は、各町内会ごとの説明会に、区職員と一緒に出席していき、職員の説明の後、キャラバン隊員が、何種類かの実際の品物を使って再確認していく。メニューは色々あり、その場その場で対応。

例えば職員は、まず「燃やすごみ」から説明していくのを、応援隊では最初に収集が月1回(当初)の紙等から始め、実際に分別して減らしていき、最後に分別できない「燃やすごみ」で終わらせる。後に資源循環局の資料も同様になったが、この方が分別の達成感があると思う。実際にゲームやクイズに参加した後は、皆からの質問や意見が多く、有意義な説明会ができた。

また、各町内会の祭り、健民祭、商店街、地区センター等へも出席して、体験できる啓発を続けていった。平成16年6月から半年ぐらいの間で140回以上は実施したと思う。

10月から分別が始まり、完全とは言えないが、かなりの効果はあったと思う。また、始まってから、さらに出番が増えていった。

その他、きちんと分別の仕方を理解してもらったための啓発のアイデアを、次々と考え出していった。「磯子区のゴミはどこへ？」のビデオ作成。これは、シナリオから出演者まで一切を区民の手づくりで完成した。間違えやすい分別をとりあげた「便利帳」も継続して内容をつなげていっている。ミーオのアイデアボックスにも、区民から様々な提案が出された。その中の替え歌「分別チャチャチャ」がヒットして、

期限付で歌えることが出来たのは、区の職員の努力のおかげである。子供たちへの啓発では、紙芝居「もったいないおばけ」と「あいちゃん動物園へ行く」を作成して、幼稚園や保育園で好評を得ている。

自分たちの勉強のため、区民と一緒に見学会、講演会、交流会等も企画実施して今日に至る。

地球温暖化など環境問題がクローズアップされる今日、ごみ分別だけではない活動が自然と見えてくる。昔から取り組んでいた「紙すき教室」や様々な「工作講座」以外にも考えていく必要がある。難しい事ばかりであると、教える側も受ける側も大変になってくる。

「キャラバン隊」(平成16年4月)から「応援隊」(平成17年4月)に名前は変わっても、モットーは変わらない。

「活動は楽しく。やさしく。無理をせず。」

磯子区を7地区に分けて、各地域の活動を行っている。月1回、地区代表者会議を開き、情報交換を図っている。他の地区に応援を頼んだり頼まれたり。他地区の企画が面白かったら、自分の所でも実施していく。このように、次々と活動が広がり、忙しくなってもあまり文句は出ない。人と人との交流が楽しいからかもしれない。県や市等から頼まれる事もあると、人を選ぶのが大変だという嬉しい悩みもある。

それともう一つ。区の応援がとてもありがたい。今まででも、せっかく良い案を出しても様々な点で無理だと思っていたことを、職員があちこち苦労して実現できた事例が数多くあった。替え歌のテープ化、便利帳作成等。また、代表者会会場や見学のバス手配、広報紙等メディアの対応等、区の応援がなければ出来ない事はたくさんあった。区民が案を出し、実行し、行政がそれを援護し、一緒に活動し、良い結果を出してきたことは、何よりの収穫だと思う。

G30が成功であるならば、人と人とのつながりが大きな力となって押し進めた結果と思う。今後も初心を忘れず、進んでいきたいと思う。